

研究主題「自己の生き方を考え、主体的に実践しようとする児童の育成」

～「考え、議論する」道徳授業の創造を目指して～

富士見市立ふじみ野小学校

1 研究主題の設定理由

道徳科では、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して道徳性を養うことが求められている。また、児童自らが主体的に道徳的価値について考え、議論する授業への質的転換を図ることが求められている。

このことを踏まえ、本校では道徳教育の目標を設定し、その達成を目指し、全体計画及び年間指導計画の作成、見直しを行ってきた。その結果児童は、道徳的価値が大切であることを理解し、実践への意欲が高まった一方、道徳的価値は大切であってもなかなか実現できない人間の弱さがあることや、道徳的価値についての考え方は多様であることへの理解は十分ではない。このことは、本来実感を伴って理解すべき道徳的価値のよさや大切さを観念的に理解させるにとどまっていたことが要因ではないかと考える。この課題を解決するため、児童がより実感を伴った理解となるよう、主体的に学習する場の創出や、自己の成長を感じられる評価を行っていくことが必要と考えた。

そこで本研究では、主体的に学ぶことができる道徳科の授業展開に主眼をおき、研究を進めることで、人間としての生き方を深め実践できる児童の育成を目指し、本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 道徳科において、児童が問題意識をもち、議論の生まれる学習展開の工夫をすることにより、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。
- (2) 全教育活動における道徳教育を計画的・発展的に指導することによって、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができ、主体的に実践しようとする児童が育つであろう。

3 研究の経過

時期	内 容
4月	・研究計画立案、研究組織づくり ・昨年度までの研究の共通理解
5月	・道徳だより発行
6月	・目指す児童像、重点内容項目の設定 ・道徳だより発行 ・仮説、研究の全体構想図の決定 ・授業の方向性、研究授業の決定 ・指導観シート作成、活用についての校内研修 ・内容項目別アンケートの実施、考察
7月	・校内研修「道徳科の授業改善を目指して」 指導者 西部教育事務所学力向上推進担当指導主事 後藤 輝明 様

〈様式2〉令和2年度埼玉県道德教育研究推進モデル校・協力校 実績報告書

	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業（全体） 3年1組「きまりじゃないか」 指導者 帝京大学大学院教職研究科教授 赤堀 博行 様 別葉の作成と活用についての校内研修 指導案検討（ブロック、各学年）
8月	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究 動画視聴 ・道德コーナー掲示物作成
9月	<ul style="list-style-type: none"> 指導案検討（ブロック、各学年） 道德教育推進教師による示範授業 6年3組 「由美の交換ノート」（彩の国の道德）「ばかじゃん！」「お母さんへの手紙」
10月	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業（ブロック）6年1組「最後のおくり物」
11月	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業（ブロック）あおぞら「およげないりすさん」 研究授業（ブロック）2年1組「かっぱ わくわく」 初任者への示範授業 6年3組「ブランコ乗りとピエロ」 研究授業（全体） 5年3組「くまのあたりまえ」 指導者 帝京大学大学院教職研究科教授 赤堀 博行 様 講演「道德授業マネジメント ～指導と評価の一体化～」 研究授業（ブロック）3年3組「黄色いかさ」 指導者 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 山本 直人 様 研究授業（ブロック）1年1組「はしのうえのおおかみ」 指導者 西部教育事務所学力向上推進担当指導主事 後藤 輝明 様 研究授業（ブロック）4年2組「あかいセミ」 指導者 富士見市教育委員会指導主事 和智 正悟 様
12月	<ul style="list-style-type: none"> 研究のまとめ
1～2月	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の計画立案
3月	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の研究について

4 研究の内容

(1) 「考え、議論する」道德授業へ

① 指導観シートの作成

授業者一人一人が指導観シートを作成し、指導の意図を明確にした授業づくり
に臨んだ。昨年度まで活用していた指導観シートを基に、教材を通して何を考えさ
せるのか、どのような発問をすることで児童が主体的に考えられるのかをより詳
しくするために、発問や、発問の意図をシートに書き込めるように改良した。授業
者の価値観や児童観によって指導の意図が明確になり、同じ内容項目、教材であっ
ても、発問構成や指導方法が異なる多様な授業展開となった。

指導観、教材観、教材分析シート【記入例】	年 組	授業者
内容項目	B 親切、思いやり	主題名 親切にされること
内容項目指導の観点	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	
① 授業者の価値観 ※ねらいとする道徳的価値（道徳的内容）について、学習指導要領に基づき明確な考えをもつ。	授業者が考える B 親切、思いやり とは？その1年生でこの学年の子も大切に育てたいと 相手の立場を考えると、相手の気持ちを思いやりたすことを通して、思いやりや親切な行為のよさを 実感できるようにしたい。	
② 児童観 ※授業者の明確な児童観に基づきこれまでの指導と子どもの学び、よさや課題を明確にし、本時の方向性を示す。	各教科等、さまざまな場面での視点で B 親切、思いやり に関わる指導をする	
各教科で指導 したこと	生活科「あそびさがそう」の学習では、親切な行為のよさを実感できるようにするために 友達のことを考えて活動した具体的な姿を取り上げて称賛した。 学級活動の話し合い活動では、思いやりや親切な行為のよさを実感できるようにするために、 相手の気持ちを考えると活動した姿を取り上げて称賛した。また、当番活動も相手の気持ちを 考えて活動するよさについて適宜指導している。	
よ さ	多くの児童が思いやりや親切な行為のよさを感ぜられるようになった。	
課 題	自分本位の考えで行動してしまうこともある。	
実態から求められること(ねらい)＝ここが授業の中心 育てたいのは、判断力、(心情) 意欲と態度	相手の立場や気持ちを考えると思いやりのある行動を受けたときのうれしさや喜びをより一層感ぜられるよう にしたい。	
③ 教材観 ※授業者の明確な価値観、本時の方向性を基に、教材の活用の仕方を明らかに、教材は活用するもの	本時で扱う教材 はしのうえのおおかみ	
実態から教材の どこを中心に考 えさせるのか	児童をおかみに自我問答させて、親切にされたときの気持ちを考えさせるために、くまに 親切にされてくまの後ろ姿を見送っているときの気持ちを考えさせる。	
④ 教材分析表 ※中心発問から前後の発問を考える	発問 1. 山の上のくまの姿とどうなるか？と問うこと。 2. 山の上のくまの姿とどうなるか？と問うこと。 3. 山の上のくまの姿とどうなるか？と問うこと。	
中心発問	くまのうしろ姿を見ながら、おかみは、どん なことを考えていたか。	
発問	意図(他) 人(心) 理解	意図(他) 人(心) 理解
「もどれ もどれ」と言 ったおかみはどんな気 持ちだったか。	いじわるをしたのしめ状 ちを考えさせる。	くまのまねをしたお かみはどんな気持ち だったか。
指導方法は 自我問答中心 問題解決的(体験的) 指導の工夫 役割演技、発問構成	本時の 学習課題 親切にされると、どんな気持ちになるのだろうか。	

ねらいとする道徳的価値について、学
習指導要領に基づき、授業者が明確な
考えをもつ。

授業者の価値観

授業者の価値観を基に、児童のこれま
での学び、よさや課題を明らかにし、
育てたい児童像をもつ。

児童観

授業者の価値観、児童観を基に、教
材の活用の仕方を明らかにする。

教材観

授業者の意図を明確にした発問構成、
指導の工夫を考える。

- 教材提示の工夫
- 発問の工夫
- 話し合いの工夫
- 書く活動の工夫
- 板書を生かす工夫
- 説話の工夫
- 思考ツールの活用
- 動作化、役割演技など表現活動の工夫

〈様式2〉令和2年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校・協力校 実績報告書

② 多様な授業展開

ねらいを達成するために、どのような指導を行うことが有効なのか検討し、指導法の工夫を行った。道徳科の特質を踏まえた授業の流れを基本とし、児童が問題意識をもち、主体的に考え、話し合うことができるように、教材提示、発問構成、ペアやグループによる話し合い、児童の思考過程が見える板書、書く活動の工夫等、多様な授業展開を行っている。



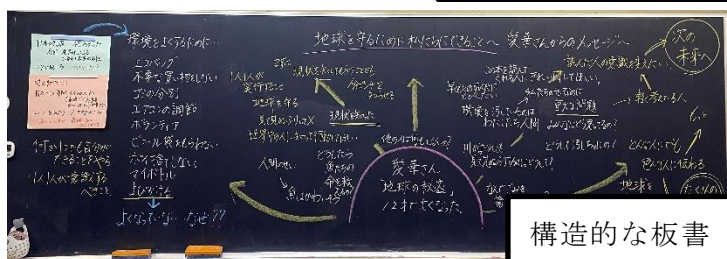
多面的に考えるグループでの話し合い



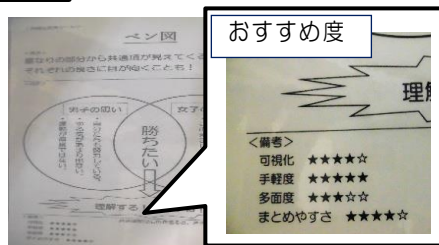
役割演技で実感を伴った学習へ



他にも心情曲線やウェビングマップ等を活用した



構造的な板書



おすすめ度

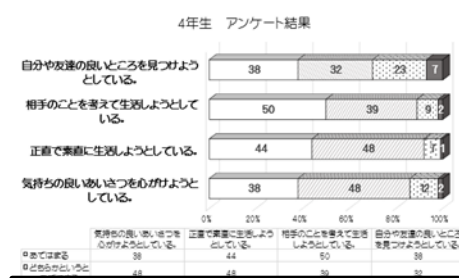
③ 年間指導計画の確実な実施

今年度は6月の分散登校から始まり、授業時数を確保することが難しい状況にあったが、道徳科の確実な実施をしてきた。「彩の国の道徳」の教材や市が作成した地域教材も年間指導計画に位置づけ、地域に根ざした教育を行っている。授業研究会は密を避けるため、ブロックでの取組となったが、全学年実施することができた。また、「ふじみ野スタンダード評価」を活用し、児童の成長が見える道徳授業を目指し、日々研鑽している。

(2) 全教育活動における道徳教育の推進

① 道徳教育重点目標と重点内容項目の設定

道徳教育重点目標を「明るいい心でよりよい人間関係を築き、相手の気持ちを考えて行動する子」とし、重点内容項目を「正直、誠実」「礼儀」と設定した。重点内容項目については日常生活の中で意識化できるように、学年掲示に道徳コーナーを設けて取り組んでいる。



重点内容項目に関するアンケート



道徳コーナーの掲示

授業の足跡の掲示、日常生活で実践したことを折り紙に書いて掲示している。

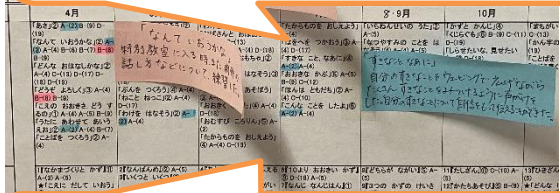
② 別葉の作成と活用

道徳の内容に関わる道徳科以外の指導の内容及び時期を明確にするために、7月の校内研修において全教職員で別葉の作成を行った。生きてはたらく別葉にするために、道徳教育の重点内容項目に色付けし、具体的な道徳科に係る指導内容について付箋で示し、職員室前の廊下に掲示している。



生きてはたらく別葉へ

1年図画工作科「好きなことなあに」自分の好きなことをウェビングで広げながらたくさん見つけられるように声かけをした。自分が好きなことについて、自信をもって伝えることができた。



1年国語科「なんていおうかな」特別教室への入り方、また、用件の話し方について話し合い、練習、実践した。

5 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- ・指導観シートを作成することで、児童に考えさせたいことが明確になり、道徳的な問題について友達と議論する中で、自己を見つめ、考えを深める児童の姿を引き出すことができた。また、発問構成や発問の意図を書き込めるよう改良したことにより、授業が組み立てやすくなった。授業者が明確な指導観をもち、指導の工夫や発問構成など多様な授業を展開することができた。
- ・日々の教育活動において、主体的に実践する児童の姿が見られた。様々な行動が制限されているコロナ禍のなか、児童がよりよい学校づくりを目指して、自ら行動を起こすことができた。また、校外学習等においては場面に応じた規律ある行動をとることができた。



児童の発案により、全員の心を一つにして、折り紙に「こんな学校にしたい」という気持ちを書き、貼り合わせて作った。

(2) 今後の課題

- ・指導観シートは、明確な指導観をもった授業づくりには大変有効であると感じているが、準備に時間を要するものでもある。誰でも手軽に活用できるように共通理解を図ながら、より一層の工夫改善を進めていく。
- ・アンケートで児童の意識を数値化することが、主体的に実践しようとしているかの実態把握には難しい。しかし、現状を把握する意味で継続は必要である。実感と客観性をもった振り返りがあるとよい。